



FANBOX

「ごっくんなことで本当に強くなれるのか？
それにこの卑猥な衣装はなんだ、ほとんど裸じゃないか！」

「股関節から膝にかけてマッサージをすることで
下腹部の丹田に力が集まり身体能力が強化されるんですよ」
「丹田といえば確かワヨクかその辺りの武術で使うとか聞いたことはあるな」
「そうそう、それですよ」

「なんだか騙されているような気もするが……」

「あ、あまり他人に触らせたことがない部分だから少し変な気分になるな」

「直接揉むことで気の流れがよりスムーズに流れるんですよ」

「途中気持ち良くなることもありますけど」

「効果が出てる証拠ですから我慢しなくていいですからね」

「そ、そうか、確かになんだか身体がアツくなってきた気がするぞ」



じゅるるるっ

「!!くっ……お、おい!何をするんだ!」

「何って、お客様が強くなるための施術ですけど」

「施術って…わ、私のあれを舐め回しているだけだろ!」

「舐め回しているだけとは少し誤解がありますね。」

「これも正当な手順なんですよ、他のお客様も皆やってますよ。」

「え……他の客もこんなことをしているのか?」

じゅるるっ

ビクッ

「ええ、有名な剣士様達もここで同じようにされてましたよ」

「信じられない……誰にやったのか少しだけ教えてくれないか?」

「へへへ、ここだけの話ですけどあの不敗神話のゴールドーキンメツキとか…」
「む、ゴールドーか……あいつはいつも直前で逃げてばかりだし
本当はあまり強くないんじゃないか？」

「しまった……知っている有名剣士を挙げたけどそれ程強くなかったのか」
「うーん……もう少し地味だけど強そうな剣士を選んだ方がいいかな（ホソツ）」
「ジミナ!? 彼もここに来たのか!」
「??え、ええ……来ましたよ」
「じみな……誰だそれ……?」

じゃあ、っ

「そうかジミナもこの施術を受けたのか。それは効果が期待できそうだ!
店主、思いつきりやってくれ!」

（なんだかよくわからんが騙せたみたいだしいいか）

「ど、なるとジミナもここで同じようなことをされたのか……
ただ楽しんでるだけかと思ったが大変な仕事だな」

















